

～ 共感する～

symPaThy

Miyazaki Physical Therapy Association

VOL. 14

Contents

① 地域ケア会議



② 健康安全運転講座報告



③ 生涯学習委員会 研修レポート



「地域ケア会議」

～宮崎県理学療法士会の取り組み～

ブロック担当局：ブロック総括委員長 柚木 直也

【地域ケア会議の背景】

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。国は、「地域包括ケアシステム」の構築を実現する事によって、住まい・医療・介護・生活支援が一体的にできるまちづくりを実現し、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる姿を目指しています。厚生労働省の介護予防政策の中に、平成28年度から実施されている「介護予防活動普及展開事業」があります。中でも先行的に市町村で取り組まれてきた効果的な介護予防の仕組みが地域ケア会議です。この地域ケア会議は介護予防の観点から「自立支援」と「重度化予防」を目的に効果的な介護サービスを検討していく市町村の事業です。

【宮崎県理学療法士会の取り組み】

日本理学療法士協会は、地域の理学療法に対するニーズに応じていくために、「地域包括ケア推進リーダー」という認証コースを設け、地域ケア会議に関わることができる人材を育成しています。宮崎県理学療法士会も各ブロックで地域ケア会議に関わる会員の養成を行っている最中です。具体的には推進リーダー取得者向けに、地域ケア会議の情報交換会を開催しています。地域ケア会議の動向、他職種への理解や行政民間団体の支援サービス情報や紹介、地域における課題抽出など、個々の助言者としての能力向上に努めています。地域ケア会議協力会員の確保やリーダー取得者の役割についても検討しています。

【理学療法士に求められていること】

地域包括ケアシステム構築に向けて、「介護予防」と「地域ケア会議」への参画が求められています。介護予防教室では直接的なアプローチ、高齢者や認知症の方の通いの場や社会参加の場を創出していく地域へのアプローチも期待されています。一方、地域ケア会議では、医療と介護の施設に働く職種として必要とされており、我々が得意とする評価から予後予測、残存能力を引き出す方法等について助言し、介護予防ケアマネジメントが検討出来ると高く評価されています。

かつてのリハビリテーションの目標は、機能障害の回復にとどまっていた。ですが今は、「その人らしい暮らしの再構築と支援」が求められています。これからのリハビリテーションはこの地域包括ケアシステムの思考を持った他職種の方々と連携して、県民の暮らしを支えていかなければならない。

そのような考えが求められるようになってきています。



写真提供：都城市・日向市

「健康安全運転講座」報告

報告者：宮崎市郡ブロック北部部長 石川博隆



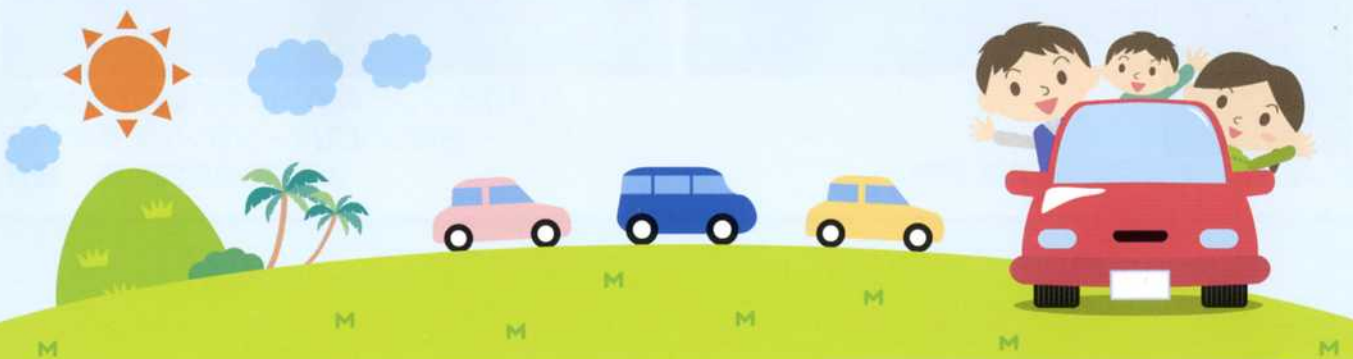
平成30年4月17日に宮崎ダイハツ株式会社南店にて、ダイハツ工業株式会社が各都道府県理学療法士協会と連携して展開する地域密着プロジェクト『健康安全運転講座』が開催され、当士会より3名の会員で参加して参りました。本事業は、健康づくりと安全運転(年齢)延伸、高齢者の運転事故予防につなげる安全な地域づくりを目的とした取り組みであり、産官学民が連携してサポートする活動の一環であります。

当日は、ダイハツスタッフ10名(内2名はダイハツ工業東京本社より)、当士会会員3名、JAF(日本自動車連盟)職員1名で実施しました。その他、宮崎市役所から視察、報道3社ほど来られていました。講座の参加者は、21名(男性15名、女性6名)で、年齢は67歳～88歳(平均77.8歳)でありました。

講座の内容としましては、【理学療法士による「体力測定・運動指導」】、【JAFによる「車の死角・正しい運転姿勢確認」】、【ダイハツ販売会社による「衝突回避・誤発進」体験】の3本立てであります。

まず、当士会会員で参加者の全員のバイタルチェックとセルフチェック(口コチェック)を行いました。その後、参加者の皆様を2グループに分け、1グループ約1時間で分けて講座を行いました。評価では、ダイハツスタッフの協力を得ながら握力、片脚立位、TUG(Timed Up & Go Test)、TMT-A(Trail Making Test)を測定し、全員が運動機能チェックを終えてからスライドにて運動機能チェックの結果説明、運転に関する身体的な説明と簡単な運動を実施しました。全体的に元気な方が多く、様々な説明などより運動を教えて欲しいという要望が出ていました。今回は初の事業ということもありモデルとなっている(一社)三重県理学療法士会のスライド等を引用させて頂きましたが、今後は参加者や多職種の方々の意見を傾聴し、宮崎県オリジナルの講座が展開できるよう柔軟に対応していければと考えております。

今回の事業参加での経験を活かし、今後も宮崎県理学療法士会における地域包括ケアシステム構築の為の一助を担えるよう、精進して参りたいと思います。また、このような地域貢献を目的とする事業に、県士会会員が一致団結して取り組むことが、今後地域支援事業の一柱として活動する私達に求められている一つの役割ではないかと感じました。



学術局 研修部 ～平成30年度 活動報告ならびに活動計画について～

研修部会は、日本理学療法士協会が定めている生涯学習システム(主に新人教育プログラム)の運営を主に行っています。基本姿勢への理解や資質の向上、理学療法の専門分野における職能的水準の引き上げ、自発的な学習の継続を理念としています。

平成30年度は、北部ブロック、都城ブロックを中心に合計6回の研修会を開催していく予定です。

学術局 研修部部長 田上 茂雄

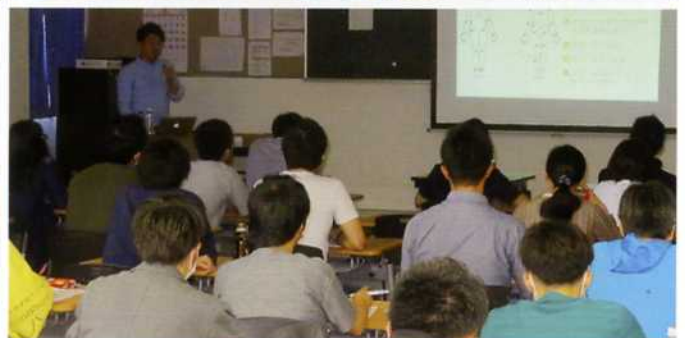
運動器研究部会 研修会報告

平成30年度第1回運動器研究部会の研修会では、平成30年5月20日(日)に宮崎リハビリテーション学院にて、「痛みのリハビリテーション～痛みに対する理学療法マネジメント～」をテーマに、甲南女子大学理学療法学科准教授の西上智彦先生、株式会社エマージェンスクエア910の内倉清等先生・福本周市先生の3名をお招きして開催致しました。

痛みを訴えている対象者に対して、痛みが発生するメカニズムを考慮した理学療法を展開するためのアセスメントとマネジメントについて学ぶことを目的として実施し、62名の参加を頂きました。

参加者からは、「自分の臨床を見直す機会になりました。新たな視点も増えたので、今日の研修会を生かして臨床に反映できたらと思います」、「治療に難渋する場面に認知的側面から介入や評価を行っていく具体的な手法を教えて頂き勉強になりました。もっと時間を長く取って頂きたいです」というご意見を頂きました。今後の研修会内容の参考にさせていただきます。

今後、ナイトセミナーや新人向けの症例検討会などの企画も考えておりますので、より多くの会員の方のご参加・ご意見をお待ちしております。



運動器研究部会
宮崎リハビリテーション学院 長友 典子
大江整形外科病院 郡 賢介

基礎研究部会 研修会報告

基礎研究部会では、平成29年度基礎研究部会研修会を、常葉大学の天野徹也先生をはじめ、山口コ・メディカル学院の伊藤秀幸先生、川崎リハ学院の田中繁治先生、放射線第一病院の森川真也先生、広島国際大学の内田茂博と5名の先生方をお招きし、2日間で28名の参加を頂き、宮崎県婦人会館にて開催致しました。

テーマは、「臨床で役立つ！研究の具体的方法論～エビデンスをつかう・つくる～」と題し、①なぜ研究が必要なのか、②どのようにエビデンスを臨床で使うのか、③どうすれば臨床疑問を解決できるのかについて学んでいきました。また、受講生を基礎コースと応用コースに分け、受講生の理解度に合わせて研修会を進めていくことで、受講生からも自分のレベルに合わせてもらい、わかりやすかったとの意見も頂くことが出来ました。

それを受けて、平成30年度の基礎研究部会の研修会は、研究支援研修会とし、平成30年7月29日に、JA・AZMホールにて、山口コ・メディカル学院の

伊藤秀幸先生と広島国際大学の内田茂博先生の2名をお招きし、「臨床で役立つ！研究の具体的方法論～基礎編～」と題し、昨年度に引き続き、研究支援研修会を企画致しました。

本研修会では、先行研究の調査方法やそれに必要な統計解析の用語などについても説明を行い、基礎的な内容をわかりやすく、解説して頂き、実際にパソコンの統計ソフトを利用した演習も行っていく予定です。エビデンスのある理学療法を展開していく上で、先行研究を調べ、研究活動を行っていくことは、今後の理学療法の発展にとって、大事なことだと考えておりますので、多くの会員の皆様に参加して頂ければと考えています。

今後は、研究支援研修会だけではなく、最先端の基礎研究に関する分野、解剖・生理・力学等に関する分野の研修会など開催し、科学的な根拠に基づく理学療法を提供できるような理学療法士の育成に取り組んでいきたいと考えています。

基礎研究部会部長 豊永勇樹

教育・管理研究部会 研修会報告

教育・管理研究部会では、今年度の研修会を「ポイントがわかる臨床実習指導入門」というメインテーマで、3回シリーズのナイトセミナーとして企画しています。第1回は、去る平成30年6月29日(金)に教育管理研究部会部長の大寺健一郎を講師として、「いまさら聞けない「クリニカルクラークシップ(CCS)って、何？」というテーマで開催しました。

このナイトセミナーでは、臨床実習指導のメインストリームになりつつあるクリニカル・クラークシップ(CCS)を、もう一度基本から学び直すという内容で、行動分析的に学生指導を考え、実践していくヒントを示しました。夜間にもかかわらず25名の参加があり、セラピストの皆さんの熱意が伝わってくる研修会でした。

今後は11月と年明けて平成31年2月にナイトセミナーを実施する予定です。新人の方はもちろん、中堅やベテランのセラピストの方にも、これからの臨床実習指導のあり方をお伝えしたいと考えております。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

教育・管理研究部会部長 大寺 健一郎

生活環境研究部会 研修会報告

テーマ：「セラピストが知っておくべき介護技術と福祉用具」～生活に視点をおいたリハビリテーション～

講師：今村病院分院 理学療法士 土井 敦 先生
 期間：平成29年6月18日(日)

会場：宮崎リハビリテーション学院
 受講者数：55名(理学療法士53名 作業療法士2名)

平成29年度第1回生活環境研究部会の研修会では、鹿児島県の今村病院分院の土井敦氏をお招きし、宮崎リハビリテーション学院で開催致しました。

会員理学療法士52名、非会員理学療法士1名、作業療法士2名の計55名の参加がありました。

研修会の内容は、生活に視点をおいたリハビリテーションとして、「身体に優しい動作サポートと福祉用具」について、介護技術と福祉用具の活用を中心に学びました。

我々セラピストは、リハビリテーションを行っていく過程で、必ず「介護」の場面に遭遇し、または家族・介護者、他のスタッフへの介護技術を指導することも多いと思います。介護技術としては、経験のみではなく「エビデンス」を含めた技術支援が重要であり、そのため動作サポートとしての手法は一つではなく多様な手法が選択できること、しかも適切であることが必要不可欠である。講義の中で、他職種連携のポイントとして挙げられたのは、「目的の共有」であり、セラピストとして評価・動作分析を行うことにより、動作サポートの目的を明確にする必要があります。

研修会後半では、「ノーリフティング原則」を踏まえ、動作サポート時の福祉用具の活用方法についてグループワークでの実技を行いました。参加者の大半は、普段の業務の中で「スライディングボード」「スライディングシート」「リフト」を使用することは少なく、起居動作から座位・移乗動作までの流れの中で、活用方法(手法)について動作分析を解説しながらエビデンスに基づく方法を体験し、学ぶことが出来ました。

翌日からの業務で即実践として活かされる講義と実技であり充実した研修会でした。

また、土井敦氏による研修会を再度開催致します。

平成30年度第1回生活環境研究部会研修会は、以下の内容を予定しています。

テーマ：「変形予防、シーティングセミナー 姿勢の評価とモジュール車イスの調整、標準型車イスでできること」

日時：平成30年8月5日(日)

会場：宮崎リハビリテーション学院

これからも生活環境支援研究部会では生活に視点を置いた様々な研修会を企画していきます。会員の皆様には、当部会へのご意見等もお寄せ頂きながら、今後も当部会活動へのご支援ご協力を宜しくお願い致します。

生活環境研究部会 横尾 和孝



神経研究部会 研修会報告

神経研究部会では、毎年小児分野と成人分野に分けて講習会を1回ずつ開催しております。今年の活動予定としまして、小児分野では、『重症心身障害児・者の呼吸障害、姿勢ケア、日中活動』をテーマに症例検討会を行う予定です。日程は未定ですので決定しましたらホームページに掲載する予定です。成人分野では、リハビリパーク板橋病院の増田司先生をお招きして『脳卒中片麻痺患者に対する理学療法の理論的根拠(仮)』をテーマに12月2日に講義して頂く予定です。増田司先生は、臨床でのリハビリを行う一方で、学会発表やPTジャーナルへの論文投稿、全国学会でシンポジストをされるなど、臨床と学術活動を両立されている先生です。臨床家目線での講義をしてくださる予定ですので興味のある先生は是非、講習会にご参加ください。

講習会とは別に、神経研究部会では、講習会の企画・運営(特に小児分野)や研究意欲のある方(神経系)を募集しております。

活動に興味のある方は、神経研究部会までご連絡を宜しくお願いいたします。

神経研究部会部長 上野 信吾

内部障害研究部会 研修会報告

当部会では、これまで呼吸、循環、がんなどをテーマに研修会を開催してきましたが、今年度はこれまでとは趣向を変え、「高齢者」をキーワードに研修会を企画致しました。

超高齢社会に入った日本において、理学療法の対象もその多くが高齢者となっており、従来の疾患別、症候別の知識に加え、高齢者を総合的な視点からとらえる能力が理学療法士に求められています。そして、高齢者の特性を理解したうえで、適切な理学療法評価・介入を図ることにより、健康寿命の延伸につながることを期待されています。

そこで、今回は高齢者理学療法の分野でご活躍の牧迫飛雄馬先生(鹿児島大学医学部保健学科・教授)を講師に「高齢者の身体特性を考慮した機能評価と運動介入の実際」をテーマに研修会を開催しました。研修会には85名(理学療法士81名、作業療法

士4名)が受講し、高齢者の運動機能と認知機能の包括的な理解から、運動介入の実際と予防効果への理解を深めました。近年、注目されている高齢者の認知機能に対する運動介入の実際では、運動による脳への影響やコグニサイズについての講義もあり、高齢者に対する運動介入の可能性も新たに学ぶことができました。受講者にとって、この研修会が病院から在宅、施設、地域など、疾患や病期を問わず高齢者理学療法を学べる機会となり、日々の臨床につなげていけるきっかけになったのではないかと思います。

当部会では、今後も内部障害の立場から宮崎県内における理学療法の推進、充実を図ることを目的に研修会を企画していく予定です。そして、一人でも多くの方に最良の理学療法が提供できるよう努めてまいります。今後も当部会の活動に、ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。



内部障害研究部会部長 吉田 裕一郎

物理療法研究部会 研修会報告

物理療法研究部会では、平成30年度活動として、5月より「運動療法の効果をもつ電気刺激療法」をテーマに、宮崎県内各6ブロックと合同研修会を継続して行いました。県内6ブロックにて計170名の参加を頂き、宮崎県内にて物理療法に関する興味・関心が高まりつつあると実感しております。

また6月24日には、宮崎県内において初めて、物理療法関連領域の理学療法士講習会(基本編 理論)を企画し、テーマ「脳卒中片麻痺患者に対する基本的理学療法の進め方～最新ニューロリハビリテーション・運動療法と電気刺激療法のカップリングについて～」とし、西大和リハビリテーション病院より生野公貴先生をお招きし、研修会を行いました。参加受付開始すぐに定員(60名)に達する程の盛況ぶりであり、県内はもとより県外、九州外からも多数の参加があり、改めて理学療法評価、動作分析、問題点抽出の重要性を実感し、電気刺激療法を目的に応じて選択的に使用することが必要だと実感でき、大成功裏に終了しました。

近年、リハビリテーションにおいて、運動療法と物理療法との併用効果はガイドラインに示され、臨床での期待や使用頻度が高まっております。しかし、依然として補完的に物理療法を使用する、もしくはアプローチの選択肢に入っていない現状も根強く残っております。各種ガイドラインでも推奨されておりますように、物理療法は理学療法介入の効果を高めるためには問題点・目的に応じて適切に使用されるべきであると考えます。今後も当部会の使命として、安全かつ適切で効果的な物理療法の実施方法、運動療法との併用効果をさらに検証し、啓蒙活動、学術活動を継続していく必要性があると感じております。今後とも精力的に活動を行って参ります。物理療法研究部会部員も募集しておりますので、ぜひ興味のある先生方はご遠慮なくお声掛けください。

最後になりますが、当部会の取り組みが物理療法学会に高評価いただき、平成30年10月27・28日に第26回日本物理療法学会学術大会が宮崎市民プラザにて開催する運びとなりました。テーマは「選ぶ!使える!物理療法スタンダード」とし、普

段より物理療法を実施されている方、興味・関心のある方、物療機器の使用経験のない方でも参加しやすい学会を目指して、現在準備を進めております。特別講演では「サルコペニアに対する物理療法戦略」や「がん性疼痛のメカニズムと疼痛管理」「骨折に対する効果的なりハビリテーション展開」と日頃の臨床にも活用できる講演を企画し、ハンズオンセミナーでは「サルコペニア」「運動麻痺(脳卒中)」「疼痛管理」「超音波画像診断」と4領域のセミナーを企画し、実際の物理療法機器を使用しながら、効果や使用方法を学べる機会をご準備しております。学術大会ホームページ(URL: <http://26thbuturyou.starfree.jp/>)も準備しておりますので是非詳しい内容をご確認ください。学術発表に関しても、全国より多くの学術研究者が参加され、密なディスカッションが期待されます。宮崎県での全国規模の学術大会は、7年ぶりの開催となります。ぜひこの貴重な機会に、多くの県士会会員の皆様にご参加していただけるよう、今後も広報活動を継続して参ります。奮ってご参加検討よろしく申し上げます。

報告者:物理療法研究部会 副部長 石原 伸之



第26回
日本物理療法学会
学術大会 in 宮崎

選ぶ!使える!物理療法スタンダード

特別講演 サルコペニアに対する物理療法戦略
野田 隆史 先生 (昭和女子大学看護リハビリテーション学部)

特別講演 がん性疼痛のメカニズムと疼痛管理
山口 浩史 先生 (昭和女子大学看護リハビリテーション学部)

特別講演 骨折に対する効果的なりハビリテーション展開
山口 浩史 先生 (昭和女子大学看護リハビリテーション学部)

ハンズオンセミナー
「サルコペニア治療における物理療法の選択と実践」
野田 隆史 先生 (昭和女子大学看護リハビリテーション学部)

ハンズオンセミナー
「脳卒中後運動麻痺を促進する物理療法」
加藤 貴志 先生 (井野辺病院)

ハンズオンセミナー
「疼痛管理における物理療法の選択と実践」
山口 浩史 先生 (昭和女子大学看護リハビリテーション学部)

ハンズオンセミナー
「超音波画像診断を用いた評価と効果判定」
中村 雅俊 先生 (新潟医療福祉大学医療技術学部)

◆一般参加期間: 平成30年5月28日-4月30日
募集期間の延長はございません。募集は口頭・ポスター形式を予定しています。多数のご応募をお待ちしています。

◆事前参加登録期間: 平成30年5月28日-10月20日

◆ハンズオンセミナーは事前申込制となります。
学会ホームページ上で行います。

お問い合わせ先 事務局 事務局 〒817-0001 宮崎県 宮崎市 中野1丁目1番1号
mail: jeast26@outlook.jp

主催 日本物理療法学会 共催 日本理学療法士協会 物理療法部門

「ライフサポート部」からのお知らせ

報告者：職能局 ライフサポート部 女性部長 守部沙織
男性部長 青山勇夫

4年前に発足された女性部会「PT（プリティー）ウーマン」から近年よく耳にする「ワーク・ライフ・バランス」を盛り込んだ「ライフサポート部」が発足しました。

ところで、ワーク・ライフ・バランスのことは、皆様ご存知でしょうか？よく耳にするようになったけど、詳しくはわからないという方が多いのではないのでしょうか？

ワーク・ライフ・バランスを訳すると「仕事と生活の調和」となります。もともとは、企業が新しいビジネス戦略として取り入れ始めた考え方で、「社員が家族や自分自身のためにも時間を配分できるようにと、働く環境を整えている企業には、優秀な人材が集まり、効率よく働いてくれる。離職率も低くなり、結果、企業の業績が向上する」というものだそうです。

新たに発足した「ライフサポート部」も、会員様が家族や自分自身のために時間配分できるように働きやすい環境を整えられるよう、サポートできる部にしていくつもりです。



今後の活動と致しまして、働きやすい環境づくりのため、社会保障制度等をきちんと知るための情報提供や研修会・管理者教育等を実施していく予定です。

そこで今年度は、会員様に対する復職支援事業を行っていく予定で、就労に関する調査を実施する方針です。



宮崎県理学療法士会ホームページ

http://www.miyazaki-pta.com

宮崎県理学療法士会 | 検索

新着情報や学会のお知らせなど役立つ情報満載!!
是非、お役立て下さい。



編集後記

あと数ヶ月で「平成」が終わろうとしています。実際には平成31年4月30日で「平成」は終わります。今年の「紅白歌合戦」は、平成で行われる最後の「紅白歌合戦」であるわけで、終わる終わるを考えると、この機関誌も次号で平成最後を迎えます。

平成21年1月に現在の「symPaThy」へと機関誌の名称を新たにしましたが、平成23年に東日本大震災が発生した際にはJMATの一員として災害医療支援活動への参加があったり、同年に理学療法士の全国学会である「日本理学療法学会」が宮崎市内で行われたりと色々な活動があったことを思い返されます。次号では、平成最後に相応しい号となるように現在準備中です。